

所信表明

(要 旨)

令和8年5月29日
つくばみらい市

まず初めに、ただ今、全国市議会議長会及び茨城県市議会議長会からの表彰状の伝達が行われました。市議会議員在職25年特別表彰を受けられた「古川議員」におかれましては、誠におめでとうございます。本市の発展に寄与してこられたそのご尽力に対して敬意を表するとともに、更なるご活躍をお祈り申し上げます。

それでは、令和8年第2回定例会の開会に際し、私の市政に対する所信の一端を述べさせていただきますと思います。

この度、3期目の市政に臨むにあたり、市民の皆様から託された期待と責任の重さを改めて胸に刻み、その使命を真摯に受け止めております。

議員各位、そして市民の皆様と共に、私はこのまちの更なる発展のため、より一層邁進する所存であります。

【8年間を振り返って】

振り返れば、この2期8年は、まさに激動の連続でありました。突如として襲いかかった新型コロナウイルスの脅威、そして今なお市民生活を圧迫し続ける物価高騰など、私たちは、かつてない困難に直面してきました。前例のない状況においても、私は常に市民に寄り添い、市民の命と暮らしを守り抜くこと、地域経済を回復させることを最優先に掲げ、ワクチン接種体制の迅速な確立、事業者への支援強化、物価高騰対策など、生活と経済の双方を支えることに尽力してまいりました。

また、私は、このつくばみらい市を変えたい、輝かせたい、その一心でまちづくりに挑戦してまいりました。みらい平市民センターの開設及び郵便局の誘致、病院バスをはじめとする公共交通の充実、「みらい型農業」の推進、「みらい平東地区」の開発、みらい平中学校の建設や「英語が使える15歳」の育成など、市民の皆様とお約束したまちづくりが実を結び、本市は新たなつくばみらい市へと着実に歩みを進めております。

【みらいビジョン】

この8年間、私は市内のあらゆる地域へと足を運び、多くの皆様と膝を交えて語り合い、まちの現状を肌で感じてまいりました。暮らしの中で感じる課題や、将来への希望、そして心に描く夢を皆様と分かち合う中で、私が政策テーマとして掲げる「もっとみらいへ」の思いは、より深く、確かなものへと育まれました。

これから迎える3期目は、単なる継続の4年間ではありません。これまでの8年間で築き上げてきた確かな土台に立ち、20年、50年先も愛される豊かなまちを形作る、極めて重要なステージであると確信しております。変化の激しい時代だからこそ、私は将来を明確に見据えた4つの「みらいビジョン」のもと、更なる成長戦略に全力を注ぐ覚悟でございます。

(1) “みらい”につながる好循環なまち

1つ目のビジョン、「“みらい”につながる好循環なまち」についてです。

まちの活力の源泉、それは人の賑わいです。まちを人の賑わいで潤し、ニーズに応えた施策をスピード感を持って実施する。そして、市民の満足度を高める施策の展開が、市の魅力向上や市民の安心に繋がり、更なる人を呼び込んでいく。こうした“みらい”につながる好循環なまちを築きます。

この好循環を支える土台となるのは、効果的な土地利用です。まちの魅力や利便性を高め、持続的な成長を生み出すため、中長期的な展望のもと、秩序ある計画的な土地利用を強力に推進いたします。

まず、新たな市街地の開発についてです。現在取り組んでいる「みらい平東地区」の開発は、大変順調に進展しており、早ければ私の3期目任中に分譲が開始される見込みです。しかし、これは私が描くまちづくりのゴールではありません。単に人が住まうだけでなく、生活の営みが地域の中で完結し、20年、50年先も、人々が希望に満ちた豊かな暮らしを送れるよう、更なる市街地エリアの拡大について、積極的に検討いたします。

次に、福岡工業団地につきましては、優良企業の誘致に成功し、今後は各企業の操業が本格化してまいります。これに合わせ、東櫛戸・台線沿線をはじめとする周辺地域への関連産業の進出も活発になることが予想されますので、これらの地域においても将来を見据えた土地利用が進められるよう検討いたします。

また、この秋には「つくばみらいスマートインターチェンジ」がいよいよ開通し、広域交通の利便性が飛躍的に向上いたします。これを単なる交通の通過点とせず、地域の活力と新たなエネルギーを生み出す「成長の拠点」となるよう、戦略的に整備を進め、市民の皆様喜んでいただける場所としてまいります。

つくばエクスプレスの開業以来、みらい平駅の利用者数は、増加の一途を辿っております。高まるニーズに対応するため、現在、駅前広場の改修に向け計画的に取り組んでいるところです。運行主体である首都圏新都市鉄道株式会社とも連携し、ビジョンを共有しながら、安全で利用しやすい、魅力ある駅を目指します。

また、本市の将来を大きく左右するプロジェクトとして、つくばエクスプレスの東京駅延伸と、都心部・臨海地域地下鉄との接続が挙げられます。これは、単なる利便性向上に留まらず、企業誘致の促進や賑わいの拡大に直結すると考えており、50年、さらにはその先の本市の成長の起爆剤となるものです。この計画を実現させるため、私は「つくばエクスプレスと都心部・臨海地域地下鉄の接続事業化促進期成同盟会」における活動を中心に、あらゆるネットワークを最大限に活用して、強力な働きかけを続けてまいります。

農業の推進につきましては、「みらい型農業」を掲げ、「お米を食べよう条例」の制定をはじめ、市内産米のPRや買い取り、金芽米への加工、米流通拠点の整備など多岐にわたる施策を展開してきました。しかし、農業従事者の減少は全国的な課題であり、これを完全に食い止めることは大変難しく、本市も例外ではありません。

これまでの新規就農者への支援を引き続き充実させていくとともに、農地の集約化や経営の大規模化などによる生産性向上や、ブランド力向上に繋がる取組を一層推進いたします。少ない人手で効率的に、質の高い農産物を生産し、農業従事者の所得向上を図ることで、夢や希望が持てる持続可能な農業へと繋げていきます。

私は、「稼ぐつくばみらい市」を掲げ、持続可能な行政経営を実現するため、財源確保に努めてまいりました。特に、ふるさと納税につきましては、大きな成果を挙げております。この「稼ぐつくばみらい市」が、次に目指すのは、「地域の稼ぐ力」を高めていくことです。その一環として、本市の豊かな地域資源を最大限に生かし、市場と結びつける新たな地域振興ビジネスの創出に挑戦いたします。これにより地域経済を活性化させ、市民の皆様が豊かさを実感できるまちを目指します。

(2) “あれも、これも” 本気の子育て・子育てのまち

2つ目のビジョン、「“あれも、これも” 本気の子育て・子育てのまち」についてです。

好循環なまちづくりの基本は、まちに人を呼び込むことです。特に子育て世代を中心とした、賑わいをつくるのが重要です。妊娠から出産、子育て、子育てまでを切れ目なくサポートする、“あれも、これも” 本気の子育て・子育てのまちを築きます。

これからの時代を生きる子どもたちには、コミュニケーション能力や科学的思考力に加え、自ら課題を発見し、主体的に行動できる力が求められています。だからこそ、一人ひとりの自己決定を尊重し、自ら考え、判断できる主体性を育む子育てへの支援や教育が重要と考えております。本市で生まれ育つ子どもたちが、自らの力でたくましくみらいを切り拓いていける環境づくりを進めてまいります。

グローバル社会において、英語はみらいを切り開く言葉です。私は、実践力を身に付けた「英語が使える15歳」の育成を目指し、子どもたちの発達段階に応じた多様なアプローチを展開しております。市内全ての幼稚園、保育所、認定こども園において、ALTと日常的に触れ合える環境を整え、小学校では教育課程特例校の指定を受け1年生から英語授業を実施しております。

本年4月からは、小張小学校を英語教育推進校として新たにスタートさせました。同校では、英語で他教科を学ぶ「クリル学習」を導入し、体育や図工、音楽などの授業にALTが加わることで、教科の内容と共に生きた英語に触れる学びを実践しております。今後は、英語教育推進校としての取組を更に強化するとともに、小張小学校で培ったノウハウをほかの学校へも展開し、市全体の英語教育の質向上に努めます。

さらに、中学生に対しては、ALTによる質の高い指導に加え、生成AIを活用し、一人ひとりのレベルに合わせた最適な学びを更に深めてまいります。

こうした切れ目ない英語環境の充実に加え、海外留学への支援など、子どもたちが世界を肌で感じられる、より実践的な機会も創出いたします。

また、国際化が進む時代だからこそ、日本の歴史や文化、伝統への理解を深め、日本人としての自覚と誇りを持ちながら、多様な人々と関わり、国際社会で活躍できる力を育みます。

子どもたち一人ひとりの可能性を大きく広げ、夢と志を持って世界へ羽ばたいていけるよう、今後も「英語が使える15歳」の育成に取り組んでまいります。

ハード面における教育環境の充実にも注力いたします。学校体育館は、子どもたちの活動の場であるとともに、災害時には地域の避難所としての役割も担っています。昨今の猛暑を鑑み、現在、市内全ての中学校体育館において空調設備の設置工事を進めております。将来的には、市内全ての小学校体育館にも空調設備を整備できるよう準備してまいります。

さらに、子育て世帯が安心して、そして豊かに生活できるよう、経済的負担の更なる軽減にも取り組みます。

義務教育においては、教科書や授業料は無償とされていますが、学校で使用するドリルなどの教材費については実費での負担をお願いしております。そこで、入学時の経済的負担を軽減するため、小学1年生と中学1年生における教材費の無償化を目指します。

あわせて、未就学児を養育するご家庭への支援も強化いたします。特に、2人以上のお子様を育てていらっしゃる多子世帯の保育料については、保護者の所得や子どもの年齢差に関わらず、第2子以降の負担軽減を図ってまいります。

子育て・教育環境の充実に加え、子どもたちが心身ともに健やかに育つためには、いじめの根絶が不可欠です。先日、つくばみらい市いじめ調査委員会から、市内中学校で発生したいじめの重大事態に関する報告書が公表されました。指摘された内容を重く受け止め、このような事態を二度と繰り返さないよう、いじめの防止に全力で取り組みます。万が一、被害者となっ

まった場合にも、孤立することなく、安心して生活できるよう、子どもたちに寄り添った支援に取り組んでまいります。

(3) “ど真ん中”に市民がいるまち

3つ目のビジョン、「ど真ん中」に市民がいるまちについてです。

地域の特性を生かした魅力のあるまちをつくるためには、国が全国一律で決めた政策を横並びで実施するのではなく、市民や地域の皆様の声をよく聞き、「今何をすべきか」をしっかりと見極め、実行することが重要です。市民目線・地域目線でスピード感を持って施策を進め、何事にも“ど真ん中”に市民がいるまちを築きます。

まちに生命を吹き込み、彩りを与えるのは、市民の皆様が生み出す活気や、地域で育まれる文化に、ほかなりません。しかしながら、これまで様々な地域に足を運ぶ中で、人々が心ゆくまで交流できる「つくばみらいならではの場所」が不足しているように感じていました。だからこそ、人々の心が豊かになるような象徴的な場所を市全体の未来図に描き、創出しなければならない。市民が主役となる文化を育み、50年先も愛されるまちへと繋げていきたい。

このような思いのもと、私は、歴史公園周辺地区に、豊かなみらいを感じられる複合的な交流拠点を整備するため、現在、基本構想の策定を進めております。この構想の核となるのは、「自然・文化・食」という、私たちの生活の根幹を成す要素が調和する、多機能な場所の創出です。

豊かな自然の中で人々が集い、この地に芽吹く新しい文化を肌で感じ、そしてこの地が育む豊かな食を囲み、人と人が自然に結びつく。そんな、「子どもから高齢者までが共に笑い合える場所」にしていきます。

これからのつくばみらい市は、子どもから大人まで、誰もが学び、自らを高める。そして、互いに成長できる場があることが、まちの底力となります。こうした取組を起点として、地域全体の活性化を図り、本市ならではの新しい価値を創造していきます。

また、本市には先人が築き上げてきた誇るべき文化や貴重な歴史的資源も数多く存在します。これらを次世代へと、より良い形で継承していけるよう取り組んでまいります。

谷和原中学校につきましては、建設中のみらい平中学校の開校に伴い、令和8年度末をもって、中学校としての歴史に幕を下ろします。また、令和10年度には、わかくさ幼稚園とすみれ幼稚園の統合も控えております。現在の役目を終えるこれらの施設は、地域の歴史と絆が詰まった、かけがえのない財産です。私は、市民の皆様の想いを受け止め、教育・文化活動の拠点や地域活性化の核などとして新たな価値を創造できるよう、多角的な視点から利活用を進めます。

(4) “人に、社会に” やさしいまち

4つ目のビジョン、「“人に、社会に” やさしいまち」についてです。

誰もが楽しみ、いつまでも暮らせるまちをつくるためには、市民・地域・企業など、全ての人々が一体となり支えあうことが重要です。ALL FOR ALLで、誰一人取り残さない、安心して暮らすことのできる地域社会を目指し、“人に、社会に” やさしいまちを築きます。

私は市長就任以来、公共交通の充実に尽力してきました。コミュニティバスやデマンド乗合タクシーの利便性向上、そして病院バスの創設。これらの施策により利用者数は順調に増加し、「便利になった」という皆様の声を力に変えてまいりました。更なる利便性向上を図るため、今後、病院バスの抜本的な見直しを行い、新たなフェーズへと進化させます。公共交通は、単なる移動手段に留まらず、市民の皆様の外出を促し、健康を支える基盤としての役割も担うものと考えております。地域公共交通の将来像を改めて深く見つめ直し、誰もが出かけやすく、そして出かけたくなる公共交通を目指します。

防犯・防災対策に終わりはありません。市民の皆様の安全・安心な暮らしを守るため、犯罪を未然に防ぐまちづくりをしっかりと進めます。しかし、予期せず、犯罪の被害者となることは、誰にでも起こり得ることです。そのようなとき、誰もが孤立することなく、安心して暮らすことができるよう、警察などと連携し、被害者やその家族の皆様に寄り添った支援に取り組んでまいります。

防災対策につきましては、公助の強化はもとより、地域住民の皆様や企業などとの連携による自助・共助の更なる推進を図ります。いざというときに命を守る行動がとれるよう、平時から災害に備えるまちづくりを進めるため、地域の災害リスクをわかりやすく伝えるハザードマップを充実させてまいります。

市民サービス向上と業務効率化を両立させるため、自治体DXも更に加速させます。特に窓口サービスにつきましては、「行かない窓口」を掲げ、電子申請の拡大やコンビニ交付サービスの利用促進などに積極的に取り組んでまいりました。その結果、利便性向上のみならず、窓口の混雑緩和にも効果が現れており、今後もこの取組を推進いたします。あわせて、温もりのあるサービスを提供できるよう、高齢者などデジタルデバイスの操作に不慣れな方々に対しても、きめ細やかなサポートを行い、誰もが安心して行政サービスを利用できる環境を整備してまいります。

福祉の充実につきましては、年齢や障がいの有無などにかかわらず、誰もが住み慣れた地域で安心していきいきと生活できる、誰一人取り残さない社会の実現に力を尽くします。

本年4月からは、どのような困りごとでも、まるごと相談いただける窓口を社会福祉課に新設いたしました。地域全体がチームとなって、人と人、人と社会が繋がるサポートに取り組んでまいります。

高齢者の皆様が、生きがいや役割をもって健やかに暮らすためには、健康寿命の延伸が欠かせません。そこで、移動や買物といった日常生活の利便性向上、地域での交流機会の創出に引き続き努めるとともに、高齢者の皆様が、長年培ってきた経験や知識を生かし、地域社会の中で活躍できる環境づくりを進めます。

障がいのある方々が、その人らしく自立した日常生活を営めるよう、引き続き、一人ひとりに寄り添った福祉サービスの提供や相談体制の充実に努めます。そして、誰もが地域の一員として様々な活動に参加できる社会の実現に向け、今後も歩みを進めてまいります。

【むすび】

以上、3期目にあたっての所信の一端を申し上げます。

先の選挙においては、無投票という形で、再び市政の舵取りを託していただけのこととなりました。投票という直接的な審判を仰ぐ機会こそございましたが、その分、市政に対する期待の重さ、そして私自身への厳しいご意見もまた、しっかりと胸に刻んでおります。

3期目においても、そうした声の一つひとつに真摯に耳を傾け、それを市政に反映させていく。そのような、市民の皆様に「よりそう市政」を徹底してまいります。

本年、つくばみらい市は市制施行20周年という大きな節目を迎えました。合併以来、市内の一体感の醸成は着実に進んでまいりました。今後は、あらゆる垣根を取り払い、真に1つのつくばみらい市として、50年先も愛されるまちを築いていきます。

また、社会が目まぐるしく変化する時代において、本市が活力と魅力のあるまちであり続けるためには、行政自らが「変わる勇氣」を持たねばなりません。

昨日と同じ今日では、明日へは繋がらない。

昨日よりもっと進んだ新しい今日へ、そして新しい明日へ。それが新しいみらい、「もっとみらいへ」に繋がっていく。

今こそ、「みらいに向けた成長へのスタート」を力強く、踏み出していきます。

この思いを実現していくため、議員各位をはじめ、市民の皆様には格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、私の所信表明とさせていただきます。

=了=